

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地		
専門学校東京アナウンス学院		昭和59年4月2日	船場 吉行		〒 164-0013 (住所) 東京都中野区弥生町1-38-3 (電話) 03-3375-4141		
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地		
学校法人東放学園		昭和54年4月1日	斉藤 晃		〒 168-0063 (住所) 東京都杉並区和泉2-4-1 (電話) 03-3323-8531		
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
文化・教養	文化教養専門課程	演技科	平成24(2012)年度	-	-		
学科の目的	実践的な学習活動によって個性あふれる多彩な表現スキルを修得し、エンターテインメント業界で息長く活躍することのできる魅力的な俳優を育成・輩出する						
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	●卒業後、演劇や映画・ドラマ・テレビなど多くのシーンで活躍できるよう、舞台と映像それぞれの演技を基礎から並行して学ぶことができるカリキュラムを持つ。●アクション、日本舞踊、ヨガ、エチュード/インプロなど、俳優としての「個性=武器」を磨く授業を配当している。●日タインブットした技術を発揮する場として、芝居の本番発表を定期的に設けている。それにより知識・技術の定着やモチベーション向上が期待できる。また、本番経験を積むことで俳優としてのセンスも磨かれる。●卒業後も進路の支援を期限なく継続して行っている。						
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,700 単位時間 単位	30 単位時間 単位	0 単位時間 単位	1,680 単位時間 単位	0 単位時間 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)	中退率			
80人	48人	2人	0%	8%			
就職等の状況	■卒業生数(C)		23人				
	■就職希望者数(D)		2人				
	■就職者数(E)		2人				
	■地元就職者数(F)		1人				
	■就職率(E/D)		100%				
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		50%				
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		9%				
	■進学者数		0人				
	■その他						
	・デビュー:21人						
(令和6年度卒業生に関する令和7年5月1日時点の情報)							
■主な就職先、業界等							
(令和6年度卒業生)							
㈱GFA、㈱ジェイズプロデュース、㈱スーパーエキセントリックシアター、㈱テアトルアカデミー、㈱ワーサル、㈱松竹エンタテインメント、トライストーン・アクティブラボ、㈱シンクバンク、㈱bamboo、㈱ファイナステージ、㈱EARLY WING、大和インフィリンク㈱、専門学校東京アナウンス学院							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載		無				
	評価団体:	受審年月:	評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.tohogakuen.ac.jp/announce/act/						
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)						
	総授業時数		1,700 単位時間				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		360 単位時間					
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間					
うち必修授業時数		1,170 単位時間					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間					
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間					
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間					
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(B:単位数による算定)						
	総単位数		0 単位				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した演習の単位数		単位					
うち必修単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		単位					
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		単位					
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位					
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人			
	計			4人			
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		0人					

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

高度な実践力や意欲の発揮に欠かせない人間性や自立心を育み、環境や技術等の変化が著しい当該業界において順応力を持った人材を輩出するために、①学生が享受すべき知識や技術について、連携企業との日常的なコミュニケーション・意見交換を通じて、教育課程の編成や教育環境の構築に関して、積極的に反映させる事。②就職先ともなり得る連携企業に所属する社員を講師として招聘し、実習・演習授業において実利性・専門性が高いカリキュラムを構成する事。以上を、企業等との組織的な連携の基本方針としている。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長を委員長とし、以下、副校長、教務教育部長の他、就職指導や就職先企業の交渉等を主な業務とする学務管理部業務主任や学科運営を主たる業務とする学科主任を学内の委員とし、学科が委嘱する業界企業の方と業界関連団体に所属し、実践の環境を熟知し、あるいはそれらを俯瞰し統括する立場の方を学外の委員として構成している。

学外委員からは当該業界の動向や変化等について、学内委員からは学事や学生の動向等について意見交換を行い、積極的な情報共有を図る。また、カリキュラムのあり方や授業の構成について、同業界において求める人材像や育むべき人間性や実践力について等、これらの具体的要件に関しても意見交換や議論を行い、教育課程決定の基とする場として位置付けている。

当委員会の内容は、学内委員により学科毎に実施されているカリキュラム会議で発議がなされ、学科担当職員との意見交換を経て、重要度の高い項目等から教育課程の編成に取り入れられる。反映された項目は、次回以降の同委員会でフィードバックがなされ、今後の会議運営に役立てる事とする。以上を教育課程の編成に関する意思決定の過程としている。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令7年8月23日現在

名前	所属	任期	種別
水城 大裕	一般社団法人日本芸能マネージメント事業者協会 理事	令和5年9月1日～令和8年3月31日	①
高木 良之	株式会社キャストコーポレーション 代表取締役	令和6年11月1日～令和8年3月31日	③
船場 吉行	専門学校東京アナウンス学院 校長	—	—
川田 泰弘	専門学校東京アナウンス学院 教務教育部 部長	—	—
大橋 真由美	専門学校東京アナウンス学院 学務管理部 部長	—	—
岩瀬 裕	専門学校東京アナウンス学院 演技科 学科主任	—	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (9月、2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年11月15日 14:30～16:00

第2回 令和7年3月17日 13:00～14:30

0

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

委員会で交わされた意見や改善提案などは次期カリキュラム検討において熟慮し、実行する内容は可能な限り早期に取り組む。

●怒られる事に慣れていない学生に対して効果的な指導法を探る…指導の背景や主旨を過不足なく正しく伝える丁寧さが必要だ。

●学生の学習意欲をより高めるために…学習の仕方(ロードマップ)を示すこと、準備運動や発声練習なぜ必要なのか、今後どのように生きるのかを丁寧に説明してあげる、職業の魅力をより深く伝えること、現場体験機会を増やすことなどが対策として挙げた。

●オーディション対策強化…事務所を招いての模擬オーディションを検討・実施する。

●2.5次元舞台に関する授業を用意したい…今まで用意していなかった2.5次元の要素を取り入れたダンスの授業を次期以降に開講すべく検討する。また、事務所と連携してプロと学べる機会を持ちたい。実際に2.5次元舞台上で活躍されている方を招いてのワークショップも効果的。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

個性あふれる突出した表現スキルを身に着け、誰からも必要とされる魅力的な俳優を育成するため、次のポイントを踏まえて企業等と連携を図る。

①演劇・芸能業界に広く通じていて現場で必要とされる力やトレンド、課題に意識を持ち、カリキュラムを編成するにあたり有用なアドバイスを得られる企業を選定すること ②企業・業界団体から随時適切な助言を得て実習授業に反映し、学生に還元すること ③企業との連携により生まれる人脈から新たな講師を迎えたり、学生の現場体験の機会創出、進路先開拓を積極的に行うこと

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

役者の基本となる舞台での演技について、タレントのマネジメントや演劇制作を主事業とする企業による授業を行う。授業は初回から体を使った実習となり、前期・後期の最後にそれぞれ舞台発表を行う。企業の強みを活かし、演劇ジャンルは一方に偏ったものではなく、芝居のルーツや古典から現代劇に至るまで総合的に演劇を学んでいく。また、役者としての武器となるアクションを1年次から学ぶ。この授業では、演劇ユニットやアクションチームを運営する企業と連携し、実務に即したアクションや安全管理を徹底した殺陣を中心とした実技指導をしている。そして、基礎を発展させた企業連携の実習授業を後期にも配当。1年の集大成となる舞台発表を、役者としてはもちろんのこと、制作・音響・照明・美術などのスタッフワークにとしても経験し、演劇制作の全体像を把握する。

学修成果については、期末の実技試験を行い、企業の目線から到達度・成長度・取り組み姿勢・参加状況などを総合的に勘案し、評価付けをしている。また、演劇発表など本番のステージがある授業はその成果を個別に、そしてチームとしても評価し、成績付けの根拠としている。上記の他、3月には学校全体の講師会を開催。当年度の振り返りと次年度授業に向けて情報共有・方針発表・授業依頼・懇親の場を設けている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
舞台演技基礎Ⅰ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	目の前にいる観客を感動させるための喜怒哀楽など感情表現や作品への取り組みなど、舞台俳優に必要な演技の基礎を学ぶ。	株式会社スーパーエキセントリックシアター
舞台演技基礎Ⅱ	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	舞台公演で使う専門用語やスタッフワーク、俳優としての台本の読み方や役作りなどを学び、稽古を重ねたうえで発表会を行う。	株式会社スーパーエキセントリックシアター
演技演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	実践的な演技力や表現力に磨きをかけるとともに、一つの作品を作り上げるためのコミュニケーション力を身につける。	株式会社スーパーエキセントリックシアター
進級公演演習	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	セリフ、表情、身体の動きなど、1年次に学んだ演技に関する総合的な表現力やスタッフワークの確認として、進級公演を行う。	株式会社スーパーエキセントリックシアター
アクションプレイa	1.【校内】企業等からの講師が全ての授業を主担当	剣殺陣の基礎や台詞・芝居を入れて殺陣を学ぶことで、芝居とアクションが一体となったアクションプレイを理解し、実践する。	株式会社ジェイズプロデュース

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記	
(1)推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記 本校では「東放学園 教員研修規程」として教員研修の目的、方針、教員の責務、報告などの事項を定めており、教員の業務経歴や能力、担当する授業科目等に応じ、専攻分野の実務に関する知識、技術、技能並びに、学生に対する指導力等、教員の能力及び資質等の修得・向上を図るため、適宜、企業等の連携した研修を行うことを基本方針としている。	
(2)研修等の実績	
①専攻分野における実務に関する研修等	
研修名: 俳優を目指すうえでの心構えや新たな世代に向けた考え方	連携企業等: 株式会社Beach
期間: 2024年4月20日 11:00～13:00	対象: 演技科専任教員／教職員 ／学生
内容: 女優「高橋メアリージュン」さんを迎えたトークショー形式の業界セミナー ●台本を受け取った後、俳優としてとる行動とは ●今時の俳優とひと昔前の俳優の違いについて ●YouTubeを運営するプロデューサーによるテレビとWebメディアの違いについて	
研修名: MIX師協会研修会「歌ってみたセミナー」	連携企業等: 一般社団法人日本歌ってみたMIX師協会
期間: 2024年9月17日 13:00～14:30	対象: 演技科専任教員／教職員
内容: ●歌ってみたMIX師協会について ●歌ってみたとは ●音源とMIX師 ●MIX師になるには ●質疑応答	
研修名: 第29回専門学校教育研究会「生成AIの教育利用について」	連携企業等: 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
期間: 2025年3月17日 14:00～16:25	対象: 演技科専任教員／教職員
内容: 生成AIの教育利用をテーマに生成AIを取り入れた初等中等教育を受けて来た生徒を迎え入れるにあたり、専門学校の教育活動にどう導入できるか、実例を交えた研究会。	
②指導力の修得・向上のための研修等	
研修名: 「体系的カリキュラム・シラバス作成(インストラクショナルデザイン)」	連携企業等: 一般財団法人 職業教育・キャリア教育財団
期間: 2024年8月30日 9:00～17:00 ※オンライン+オンデマンド (3～4時間)	対象: 演技科専任教員／教職員
内容: ●事前にオンデマンド配信の動画を閲覧して、研修日当日までに授業の分析表とコマシラバスを作成。研修日はグループに分かれて作成してきた資料の共有と講義者全員への発表をする。その後フィードバックを得てコマシラバスの修正と講義者全員への発表をする。●インストラクショナルデザインを用いた授業の作り方	
研修名: 留学生のイマを知る～留学生募集の現状と各分野校の取り組み事例～	連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会
期間: 2025年1月16日 15:00～17:00 ※オンラインセミナー	対象: 演技科専任教員／教職員
内容: 留学生のイマを知るをテーマにした、近年大きく変化している留学生の環境に基づいた留学生募集の観点からのセミナー。いくつかの分野の専門学校から校長、職員が登壇して各校の留学生の状況、今後の取り組み・展望について発表、ディスカッションする。	
研修名: 令和6年度 就職等進路に関するセミナー 『2025年度「雇用・学生・業界」の課題 ～だから大切に導きたい！初めての就職～』	連携企業等: 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
期間: 2025年1月20日 15:00～16:00	対象: 演技科専任教員／教職員
内容: I【雇用環境のリアル】ここまで開く新卒と中途採用 II【学生就活】現場で感じる3津の課題 III【2025業界動向】主要産業が変わる！？ ※Zoomを利用したオンライン形式で実施	

(3) 研修等の計画		
① 専攻分野における実務に関する研修等		
研修名:	ドラマ・ティーチャー ステップアップ研修	連携企業等: 一般社団法人日本演劇教育連盟
期間:	未定	対象: 演技科専任教員
内容	演劇教育の理論と実践をオンラインで学ぶ。ドラマ・ティーチャー資格取得プログラムにも対応。	
研修名:	教師のための演劇教育研修講座	連携企業等: 株式会社三省堂
期間:	2025年8月頃	対象: 演技科専任教員
内容	<ul style="list-style-type: none"> ● 演劇的手法で豊かな学級づくり ● 演劇的手法を使った道德の授業 ● リーダース・シアター(朗読劇)に取り組もう 演劇を通して学生の考えの理解と実践指導に活かしていく。	
研修名:	指導者養成セミナー	連携企業等: 一般社団法人日本演劇教育連盟
期間:	2026年1月頃	対象: 演技科専任教員
内容	認定ドラマ・ティーチャー養成プログラムの基本コース。 ワークショップを通じて演劇教育を体験し、今後の資格取得に活かしていく。	
② 指導力の修得・向上のための研修等		
研修名:	Z世代の育て方～新しい価値観に向き合う人材育成のあり方	連携企業等: 株式会社インソース
期間:	2025年8月頃	対象: 演技科専任教員／教職員
内容	多様化する学生について、その環境や考え方を知り、普段の指導・教育に活かしていく。 ● Z世代とは何か ● Z世代の育った環境・背景 ● Z世代の特徴	
研修名:	演劇的手法で変わる授業と学校	連携企業等: 一般社団法人日本演劇教育連盟
期間:	45984	対象: 演技科専任教員
内容	身体と空間のチカラ、そして想像力を発揮して学ぶ「なってみる学び」。日常の授業のなかでどのように取り入れられるのか具体的な素材を取りあげて、体験と事例紹介をもとに考える。	
研修名:	令和7年度 就職等進路に関するセミナー	連携企業等: 公益社団法人東京都専修学校各種学校協会
期間:	2026年1月頃(2024年度実績より)	対象: 演技科専任教員／教職員
内容	I【雇用環境のリアル】ここまで開く新卒と中途採用 II【学生就活】現場で感じる3津の課題 III【2025業界動向】 ※Zoomを利用したオンライン形式で実施 (2024年度実績より)	

4.「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

- ①教育の一層の充実を図り、学校の目的および社会的使命を達成するため、各校における教育活動等の状況について定期的に関係者評価を行い、随時改善を図ることを目的とする。
- ②学園は充実した学校評価制度の構築に努め、各校・各部門はこれを実施する体制を整える。
- ③各校・各部門は、情報公開を念頭に置き、より高い基準を設定し関係者評価を実施する。

(2)「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1)教育理念・目標	使命、行動指針、教育方針、理念、目的、育成人材像
(2)学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度、意思決定システム、情報システム
(3)教育活動	目標の設定、教育方法・評価等、成績評価・単位認定等、資格・免許取得の指導体制、教員・教員組織
(4)学修成果	就職率、資格・免許の取得率、卒業生の社会的評価
(5)学生支援	就職等進路、中途退学への対応、学生相談、学生生活、卒業生・社会人
(6)教育環境	施設・設備、学外実習・インターンシップ等、防火・安全管理
(7)学生の受入れ募集	学生募集活動、入学選考、学納金口
(8)財務	財務基盤、予算・収支計画、監査、財務情報の公開
(9)法令等の遵守	関係法令・設置基準の遵守、個人情報保護、学校評価、情報公開
(10)社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献の取り組み、ボランティア活動の取り組み
(11)国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

評価項目それぞれに対し、各委員から積極的かつ前向きなご意見をいただいた。それを職員間で共有し、様々な面から学校の改善に役立てている。

【意見・提案】VTuberや留学生の進路先をより広く開拓すべき

⇒学科名を変更した配信クリエイター科の進路先開拓は急務で、関連の見本市や展示会などでも企業との交流を図り人脈を広げた。また、留学生支援においては、在籍数が一番多い声優科が職業実践専門課程の認定を受けることで、進路先企業の幅が広がる。結果、2024年度に申請をし、認定を受けることができた。

【意見・提案】専門学校でも探求学習のような授業はあるか

⇒先生から学生に対して一方通行のような授業は学生の注意力も散漫になり、学習効果も高く望めないことから、殆どが双方向のやりとりをもつ実習授業となっている。今後は学生が自ら課題を見つけ、あまたある情報を的確に収集・選定し分析することで問題解決能力向上を望める授業を増やして行く。

【意見・提案】学生ボランティア活動はどのくらいあるか。ただし、ボランティアには一切強制力を持たせてはならない。

⇒学生のボランティア活動にサークルのようなものはなく、依頼を受けての活動が殆どである。今後は地域との交流や社会貢献の面からも、受けの活動だけではなく学校・学生から社会に発信していけるよう、SNSなども通じて啓蒙していきたい。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
中山 博実	一般社団法人日本芸能マネージメント事業者協会 理事	令和7年4月1日～令和9年3月31日	進路先及び関連業界関係者
中濱 敏彦	星槎国際高等学校 星槎中野サテライトキャンパス フェリーチェ高等学院 教頭口	令和7年4月1日～令和9年3月31日	高等学校教諭
坂上 晶	専門学校東京アナウンス学院 放送声優科卒業生	令和6年4月1日～令和8年3月31日	卒業生
田頭 心	声優科1年生保護者	令和7年4月1日～令和9年3月31日	在校生保護者

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			演技演習	実践的な演技力や表現力に磨きをかけるとともに、一つの作品を作り上げるためのコミュニケーション力を身につける。	1・後	60	2			○	○			○	○
2	○			進級公演演習	セリフ、表情、身体の動きなど、1年次に学んだ演技に関する総合的な表現力やスタッフワークの確認として、進級公演を行う。	1・後	60	2			○	○			○	○
3			○	演技科夏公a	演技科1・2年を対象に1本の芝居を制作し、基礎的な身体性・感覚・発声・台詞術の向上と表現力のレベルアップをはかる。	1・前	60	2			○	○			○	
4			○	ヨガ・体幹トレーニングa	ヨガの歴史や哲学を学び、さまざまな呼吸法を実践し、柔軟性、筋力、バランスを整えるとともに集中力や忍耐力を養う。	1・前	30	1			○	○			○	
5			○	アクションプレイa	剣殺陣の基礎や台詞・芝居を入れて殺陣を学ぶことで、芝居とアクションが一体となったアクションプレイを理解し、実践する。	1・前	30	1			○	○			○	○
6			○	アクションプレイb	剣殺陣の基礎や台詞・芝居を入れて殺陣を学ぶことで、芝居とアクションが一体となったアクションプレイを理解し、実践する。	1・後	30	1			○	○			○	○
7			○	日本舞踊基礎	浴衣の着付けと帯結びを覚え、和服を着て動くことに慣れるとともに、座る・立つ・歩くなど和服での所作の基本を習得する。	1・後	30	1			○	○			○	
8	○			中間発表	劇場にて舞台発表を行う。俳優の視点と脚本・音響・照明等のスタッフの視点も経験することで、キャスト・スタッフの両方の役割を知りながら、舞台制作の基本を学ぶ。	1・前	60	2			○	○			○	
9	○			エチュードⅠ	さまざまなテーマやシチュエーションに基づいて、即興での演技に取り組み、瞬発力、表現力を養う。観衆に伝わる、伝える表現を習得する。	1・通	30	1			○	○		○		
10	○			映像演技基礎Ⅰ	役に向き合うための自己解放や各自の個性に合わせたオリジナルの表現など、カメラの前での演技の手法・表現・基礎を学ぶ。	1・前	60	2			○	○			○	
11	○			映像演技基礎Ⅱ	カメラの前で演技を繰り返すことで、自分の声、身体、表現を客観的に見る目を養い、プロの俳優としての心構えを身につける。	1・後	60	2			○	○			○	
12	○			舞台演技基礎Ⅰ	目の前にいる観客を感動させるための喜怒哀楽など感情表現や作品への取り組みなど、舞台俳優に必要な演技の基礎を学ぶ。	1・前	60	2			○	○			○	○

13	○		舞台演技基礎Ⅱ	舞台公演で使う専門用語やスタッフワーク、俳優としての台本の読み方や役作りなどを学び、稽古を重ねたうえで発表会を行う。	1・後	60	2			○	○			○	○
14	○		発声発音Ⅰ	腹式呼吸、口の開き方、唇の使い方、舌の位置を発声練習のなかで確認し、喉に負担をかけず声を鍛える発声方法を身につける。	1・前	30	1			○	○			○	
15	○		発声発音Ⅱ	無理のない本来の声を見つけ、声だけ演技できるように声の高低、発声の硬軟を使い分け表現の幅を広げるテクニックを習得する。	1・後	30	1			○	○			○	
16	○		感情表現	喜怒哀楽の表現を頭の中でイメージし、それを思い切り人前で表現することで、感情を最大限まで表現できる演技力を身につける。	1・前	30	1			○	○			○	
17		○	台本の読み方講座	与えられた脚本の意図を理解する読解力と、それを表現するために必要な俳優としての基礎を構築する。	1・前	30	2	○			○			○	
18	○		セルフプロモーションⅠ	エンタメ業界で活躍するゲスト講師から業界の現状を聞き、目指すべき俳優像を明確にする。俳優としての個性、特徴、強みを自己分析し、オーディションで自身の魅力をアピールできるようにする。	1・通	30	1			○	○			○	
19		○	インプロa	与えられたテーマに沿って即興で演じるレッスンを行い、俳優としての引き出しを強化していく。	1・後	30	1			○	○			○	
20	○		芸術鑑賞Ⅰ	専門分野の知識・見識を高めるために、新劇や小劇場演劇、美術展、ライブなどプロのパフォーマンスを鑑賞する。	1・後	30	1			○		○	○		
21	○		公演・制作演習	2年間で学んだ演技力や表現力、チームワークを実践形式で試すため、外部の劇場を使用して1つの演劇作品を完成させる。	2・後	##	4			○	○			○	
22	○		舞台公演ゼミⅠ	プロの演出家の指導のもと、演劇に必要な知識や演技力、どんなシチュエーションにも対応できる力を身につける。	2・前	##	5			○	○			○	
23		○	舞台公演ゼミⅡ	卒業公演に向けた稽古の過程から、外部ホールでの本番をとおして、実践的な演技力やキャラクターの作り方を学ぶ。	2・後	##	5			○	○			○	
24		○	論文ゼミ	自分自身の得意分野を見つけ、研究するテーマについての知識や見識を深める。深く掘り下げる作業の中で、対象の捉え方や比較、抽出と云った思考を磨く。	2・後	##	5			○	○			○	
25		○	映像演技実習a	役者としてだけではなく、脚本、撮影、編集等、制作スタッフの役割も学び、映像演技を多角的に捉えて理解を深める。	2・前	60	2			○	○			○	
26		○	映像演技実習b	役者としてだけではなく、脚本、撮影、編集等、制作スタッフの役割も学び、映像演技を多角的に捉えて理解を深める。	2・後	60	2			○	○			○	

27			○	演技科夏公b	演技科1・2年を対象に1本の芝居を制作し、基礎的な身体性・感覚・発声・台詞術の向上と表現力のレベルアップをはかる。	2・前	60	2				○	○			○	
28			○	ヨガ・体幹トレーニングb	ヨガの歴史や哲学を学び、さまざまな呼吸法を実践し、柔軟性、筋力、バランスを整えるとともに集中力や忍耐力を養う。	2・後	30	1				○	○			○	
29			○	アクションプレイc	剣殺陣の基礎や台詞・芝居を入れて殺陣を学ぶことで、芝居とアクションが一体となったアクションプレイを理解し、実践する。	2・前	30	1				○	○			○	○
30			○	アクションプレイd	剣殺陣の基礎や台詞・芝居を入れて殺陣を学ぶことで、芝居とアクションが一体となったアクションプレイを理解し、実践する。	2・後	30	1				○	○			○	○
31	○			エチュードⅡ	さまざまなテーマやシチュエーションに基づいて、即興での演技に取り組み、瞬発力、表現力を養う。観衆に伝わる、伝える表現を習得する。	2・通	30	1				○	○			○	
32	○			発声発音Ⅲ	トレーニングで鍛えた筋肉を使い、最大効率で声を出す呼吸法（横隔膜呼吸）を身につけ、舞台発声に不可欠な身体を作り上げる。	2・前	30	1				○	○			○	
33	○			演技総合	複数の講師が講座を分担して行うことで、さまざまな演技メソッドに触れて、俳優としての視野を広げる。	2・前	30	1				○	○			○	
34	○			セルフプロモーションⅡ	エンタメ業界で活躍するゲスト講師から業界の現状を聞き、目指すべき俳優像を明確にする。俳優としての個性、特徴、強みを自己分析し、オーディションで自身の魅力をアピールできるようにする。	2・通	30	1				○	○			○	
35			○	インプロb	与えられたテーマに沿って即興で演じるレッスンを行い、俳優としての引き出しを強化していく。	2・後	30	1				○	○			○	
36	○			芸術鑑賞Ⅱ	専門分野の知識・見識を高めるために、新劇や小劇場演劇、美術展、ライブなどプロのパフォーマンスを鑑賞する。	2・通	30	1				○		○	○		
合計						36	科目	1710 単位（単位時間）									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：	①期日までの学費納入 ②必修科目を含む年間800時間以上、卒業時1700時間以上の修了認定	1学年の学期区分	2期
履修方法：	シラバスや初回授業(ガイダンス)で内容を確認し、期日までに履修科目の登録を行う	1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。